

B116

都市の未利用地の賦活・更新技術育成

—公開空地（都市のヴォイド）の活用提案—

Proposal of re-use of unused ground in city
- Use of Void of city -

西田 司（研究員）
吉川 徹（助教授）

饗庭 伸（研究員）
大月 敏雄（協力者，東京理科大学）

Osamu NISHIDA (Res. Assoc.), Shin AIBA(Res. Assoc.),
Toru YOSHIKAWA (Assoc. Prof.), and Toshio Otsuki(COE Collaborator, Tokyo Univ. of Science)

ABSTRACT

The vacant lot in the city used only as businessman's smoking space is effectively used as a place for the communication space and refreshing space. It is a proposal type project to renew the city from an external space by updating the vacant lot in the city bringing some together.

キーワード：都市のくうち 実践型プロジェクト 小さなまちづくり手法
Keywords: Void of city, Practice type project, Small city planning technique

1. 背景とアプローチ

B114（神田地区を舞台にした建築・まちづくり教育の実践的展開）から分岐する形で今年度より創出されたカテゴリー。前年度まで行っていた街の未利用地＝路地の再生から発展し、ビルの狭間に見えるオープンスペース＝公開空地の活用を題目に提案型ワークショップをビル利用者（サラリーマン、OL）を対象に行っている。2005年度は、東京理科大学の大月研究室と組んで、皇居沿いのオフィスエリアのビルの足下に広がる公開空地数箇所で行った。題して「くうちプラス」。

の喫煙スペースとしてしか機能していない「街のくうち」をもっとコミュニケーションやリフレッシュの場として有効活用し、それら点と点を結び、更新していくことで街全体をセミパブリックな外部空間から織り直していくような提案型実施プロジェクトである。その一例として期間限定でCET05*にあわせてオープンした「足湯カフェ」を挙げる。インキュベーターオフィスを運営するプラットフォームサービスや、区の街づくり公社「まちみらい千代田」が入居する千代田プラットフォームスクエア横の「くうち」に出現した「足湯カフェ」は、くうちに竹と箆の子を敷き詰め、湯が流れる池をつくり、サラリーマンやOLが昼休みやアフター5に、裸足になって足を湯につけながら、街を眺めつつ対話する場所（視点）を創出することを試みている。



図1 くうちMAP（CET05にて配布）

街に開放されていながら、現実にはサラリーマン



公開空地の俯瞰

2. プロセス 街との接触＝人との接触

街に関わることは、環境を読み解くことであり、一つ一つの環境を整え、新たな環境をつくることである。この「くうちプラス」においても、大月研究室が行っていた公開空地の利用状況調査が発端となり、地域住民とのワークショップを以前より仕掛けていた首都大学東京のメンバー、区から街づくり助成金を受けて活動している学生団体

「神田夢ラボ」の学生達が入り込み、さらに東京の現状に興味をもっていた米国テンプル大学の短期留学中の学生等が飛び入りで参加している。メンバーが整ったところで、企画を考え、デザインに落とし、総勢40名のメンバーに対して各々がプレゼンを行う。それと同時に企画の実現と成功に向けビルオーナーを口説き、地域の企業に協力を仰ぎ、区に後援を依頼し、CET05のキュレーターに参加を表明し、広報のために街で宣伝用のピラを撒くなどを行う。表現力と説得力と忍耐力や体力が同時に必要な行為である。

3. 技術育成 デザインの説得力を身につける

混成メンバーの中で自分が考えたことや発見したことを伝えていき、またビルのオーナーやターゲット層などを巻き込むために、粘り強く説得を繰り返していくことで、デザインは強化され、新たな価値が生み出される。デザインの価値は、ひとつのデザインがさまざまな人の視点で読み解けることにより高まり公共性を帯びていく。建築、デザインという立場から街へアプローチしていくことは、デザインという職能を拡げる良い機会でもある。今回紹介したような街に対する断片的なアプローチは、余りにも小さく、これだけで街を変える本流には決してなれないかもしれない。しかし街にはまだまだデザインが入り込む余地が無数にあり、そこへのアプローチは少なくとも街を新しい視点で見るとそれ自分自身の説得力を磨く行為となっているであろう。

□ 協力

東京理科大学大月研究室／テンプル大学ジャパン／神田夢ラボ／ちよだプラットフォームスクエア

□ 後援

財団法人まちみらい千代田



写真1 & 2 公開空地の調査、分析



写真3 & 4 デザインミーティング



写真5 & 6 公開プレゼンテーション



写真7 & 8 くうちに完成した「足湯カフェ」

* CET05：セントラルイースト東京05

(街の個性とにぎわいを取り戻すための運動)

□ プロジェクトリリース

日本経済新聞 2005年9月22日

「神田の未利用地 学生ら地域交流企画」

産経新聞 2005年10月8日

「ビルの谷間に にぎわいの場」